

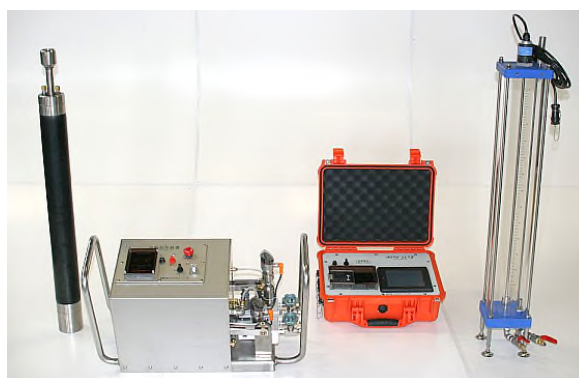
2014 年 7 月 11 日

報 道 関 係 各 位

応用地質株式会社（東証 9755）

高圧ガス制御から水圧制御へ移行した孔内載荷試験装置 **AUTO LLT2**
～取扱いが楽、簡単操作、全自動圧力制御により測定データの品質向上～

応用地質株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：成田 賢）のグループ会社である応用計測サービス株式会社（本社：埼玉県川口市、代表取締役社長：堀之内 富夫）は「**AUTO LLT2**」の販売とレンタルを開始いたしました。圧力源として高圧ガスを使用しない全自動の孔内載荷試験装置です。販売価格は 350 万円、レンタルは一週間 14 万円となります。（特許出願中 2014 年第 103896 号）



孔内載荷試験装置のデファクトスタンダードである LLT は当社が自社開発し、1970 年に商標登録した製品です。今回、高圧ガス制御から水圧制御へ移行したことで、次の 2 点が大きく変わりました。

- ・圧力源に水圧を用いる方が制御しやすく、全自動が可能となり、測定データの品質が向上。
- ・ガスボンベや耐圧タンクを用いないことから取り扱いが容易で、軽量化され、安全である。

※従来の LLT のタンクは高圧ガス保安法で規定する高圧ガス製造設備に該当するため、使用者が試験装置ごとに都道府県知事に高圧ガス製造事業届を提出する必要がありましたが、**AUTO LLT2** では不要となります。

1966 年頃に開発された初期のモデル



孔内載荷試験装置とは？

孔内水平載荷試験は、主に杭の設計に用いる地盤の水平方向の強度特性を把握する一般的な原位置試験です。これまで、孔内水平載荷試験装置は手動で行われていたために、試験精度に個人差がありましたが、自動化により一定の精度の試験結果が得られるようになります。

今後は、オリンピック効果などによる、建物建設の需要の拡大に伴い地質調査が増加し、孔内水平載荷試験も増加することを想定しており、地質調査の増加に伴い調査会社が新たに試験装置を設備することを期待しています。

従来の LLT はどうなるのか？

従来の LLT の販売台数は 1970 年から今までで 1500 台以上になります。機器本体の値段は **AUTO LLT2** の方が高額になりますが、高圧ガスのランニングコストやリスクを考えると、高くない値段と考えられます。応用計測サービスは今後 **AUTO LLT2** を主力商品とする方針ですが、従来型 LLT も当面サポートいたします。

応用計測サービスの会社概要

応用計測サービスは、OYO 全社が所有する計測機器を一括管理する事によって、メンテナンスの効率化や設備資産の有効活用を図る事を目的とした会社です。OKS に集約され整備された計測機器は、応用地質のほか外部にもレンタルにて提供しています。機器レンタルのほか、設置計器の現地メンテナンス業務やレンタルに付随する計測・原位置試験・物理検層の実施及び指導等も行っています。また、川口エース工業（前身）からの継続事業としてナイスシールに代表される遮水材・止水材の販売を行っています。

応用計測サービスホームページ <http://www.oyoks.co.jp/>

OYO フェア 2014 で **AUTO LLT2** 実機展示予定

応用地質が毎年開催している OYO 展は「OYO フェア」に名称が変わります。今年は「社会に潜むリスクの“見える化”」というメインテーマで、10 月 9 日・10 日に秋葉原 UDX ギャラリーにて開催します。**AUTO LLT2** の実機展示を予定しています。

OYO フェア 2014 特設ウェブサイト <http://www.oyo.co.jp/oyofair2014/index.html>

<本リリースに関する問合せ窓口>

応用地質株式会社
社長室 川地・津野
TEL: 03-5577-4501(代)

<製品・レンタルに関する問合せ>

応用計測サービス会社株式会社
営業部 菊地
レンタル事業部 佐藤
TEL: 048-285-2133
FAX: 048-284-9553